

# 奨励賞

## 学校法人桜丘 桜丘中学高等学校

活動の内容 (概要)	落花生の栽培からピーナツバターの製造、販売に至るまでの一連の流れを体験することで、いわゆる「六次産業化」の過程には、多くの役割や仕事が存在し自分の得意を活かせる場面があることを学んでいる。こうした実体験を通し、生徒は、自分の視野を広げ、自己肯定感を高めるとともに、社会を理解し将来を前向きに考える姿勢を育んでいる。
審査委員コメント	<p>・「成功も失敗も学びとすること」を基本理念として、落花生栽培からピーナツバターになるまで1年間を通じた取組で成長を促している点が素晴らしい。また、上級生が下級生へ伝承する工夫も良い点である。地域のイベントで販売したり協力店舗数が増えたりすることで、生徒のやる気と自信が未来につながるように感じる。今後さらに活動の幅を広げ、生徒が将来を前向きに考える姿を期待したい。</p> <p>・桜丘中高の取組からは、「人のために何かをしたい」という生徒の思いが丁寧に育てられていることが感じられる。ピーナツバターの製造・販売・寄付など、日常の中に社会とのつながりが自然に組み込まれており、学びが心に届く形で広がっている。先生は生徒の小さなアイデアを受け止め、そこから一緒に形にしていく伴走者として寄り添っている。その優しい関わりが生徒の挑戦を支え、自信や責任感を育てているように感じられる。経済や福祉など、さまざまな分野を横断して学びが広がっている点も魅力的である。こうした取組を通じて、社会との関係性を学びながら心を育てているように思われる。今後も、人と社会をつなぐ温かい学びとして発展していくことを期待する。</p> <p>・卒業生の組織化、成果発表での保護者の巻き込み、売上の利用方法まで内容が非常に良い。</p>
連携・協働している 機関や団体、組織	<p>教育関係者(学校、教育委員会等)</p> <p>京都大学、情報経営イノベーション専門職大学</p> <p>行政(首長部局等)や地域・社会(NPO法人やPTA団体等)、産業界(経済団体や企業等)</p> <p>【行政】千葉県山武市、東京都北区広報課 【地域社会】特定非営利活動法人ウォーターエイドジャパン、認定NPOキッズドア、認定NPO法人 難病のこども支援全国ネットワーク、江戸川区立南葛西会館、動物愛護団体ちばわん 【産業界】HappyNutsDay、株式会社電通、株式会社MotionGallery、スパイスキューブ株式会社、メディアサーフコミュニケーションズ、株式会社日本総合研究所、農ライフアーズ株式会社、FUTURE DAY SHOP、赤羽経済新聞社 他</p>
活動開始の経緯	社会に出る前の子どもにとって、多様な進路や働き方を知る機会が不足していることが課題となっていた。2021年頃、本学の学生を対象に社会人を招いたキャリア講演を行ったことを契機に、関係者との相談を重ねる中で「継続的に学びの機会を提供する仕組み」を作り上げるに至った。
活動の内容	<p>協力性についての具体的な取組、工夫している点など</p> <p>起業家精神教育という観点を持った取組ではあるが、教育とビジネスの価値観の違いを十分に踏まえ、丁寧なすり合わせを重ねてきた。ビジネス的な側面で考えると「成果や成功」を重視する一方で、本校教育では「成功も失敗も学びとすること」を大切にしている。そのため、互いの立場や理念を尊重しながら頻りにミーティングを行い、目指す方向性を共有した。</p> <p>加えて、外部の協力者には生徒一人ひとりの特性や得意分野を事前に伝えることで、個性を理解したうえで関わってもらえるよう工夫している。特に、単発の出会いとなる外部講演者については、生徒にとって大きな転機となる可能性があるため、授業で使用する言葉や表現についても事前に確認を行い、教育的観点を重視した内容になるよう配慮した。</p> <p>年間を通じて取り組む授業ではあるが、毎回の実施前に必ず情報共有を行い、本校教員と協力者が一体となる体制を継続的に維持している。このように、互いの立場を尊重しつつ有機的に連携することにより、教育的目的と社会的ビジネスのリアリティを融合させ、生徒にとって意義ある学びの場を創出するよう工夫している。</p>

活動の内容	継続性についての具体的な取組、工夫している点など
	<p>授業担当者の配置に関して、探究科教員を中心に複数教員によるチーム・ティーチング体制を組み、授業運営が特定の担当者に依存しない仕組みづくりを行っている。これにより、授業実施に必要なノウハウを共有し、次世代の教員へと引き継ぐ人材育成を進めている。</p> <p>また、授業の中では学年間の垣根を越えた交流を意識的に取り入れ、上級生から下級生へと学びや経験が自然に伝承されるよう工夫している。さらに、定期的に成果発表会を校内で実施することで、生徒の成長を可視化するとともに、学校全体で活動を共有する機会としている。昨年度は約111名の生徒・保護者・企業関係者が参加した。会終了後にはアンケートを実施し、次年度に向けた改善点を回収することで毎年アップデートを図っている。</p> <p>これらの仕組みによって、生徒・教員双方にとって「学びが循環する場」を形成している。最終的には、本校卒業生が母校に戻り、この授業形態を運営できるようになることを大きな目標として掲げている。実例として、この取組の1期生として受講した生徒は、在学中に起業をし、卒業後も生徒のフォローやアドバイスなどの活躍をしている。</p> <p>今後さらに拡大するためにも、在学中から実践的な経験を積ませると同時に、卒業後も関わり続けられるネットワークの構築を進めている。さらに、随時協力可能な企業や地域団体を新たに開拓し、外部との協働体制を広げることで、社会とつながり続ける持続可能な授業運営を目指している。</p>
	実践性についての具体的な取組、工夫している点など
	<p>現代の子どもは、受験に多くの時間を割く一方で、社会に出る前に多様な職業や働き方に触れる機会が限られており、将来を考える際の選択肢が狭くなりがちである。地域では一次産業の後継者不足や農家の高齢化に伴う衰退、魅力発信の不足といった課題が顕在化している。こうした状況を踏まえ、本取組では落花生の栽培からピーナツバターの製造・販売までを体験し、農業・製造・販売・広報といった産業の多様な役割を学ぶ機会を設けている。</p> <p>生徒は実体験を通じて自らの得意や関心を見出し、将来への視野を広げることができる。さらに、地域企業や生産者と協働することで、実際の社会課題に向き合い、キャリア教育を現実社会と結びつける力を養っている。加えて、近年の社会的課題である環境問題や持続可能性にも触れられるよう、クリーンエネルギー工場や再生可能エネルギー施設の視察を取り入れ、産業と環境の関わりについて学ぶ機会を提供している。</p> <p>これにより、生徒は地域課題にとどまらず、環境問題などの地球規模の課題とも結びつけて自らの進路を考える力を養っている。本活動は単発の体験にとどまらず、探究的な学びの一環として継続的に実施され、成果発表会や学年間交流を毎年行うことで学校全体のキャリア教育を下支えしている。地域の課題と学校の教育的ニーズを有機的に結びつけることで、生徒の主体性を高め、将来を前向きに描く力を育成している。</p>
	発展性についての具体的な取組、工夫している点など
<p>学校内にとどまらず地域・社会全体へと波及することを大きな特徴としている。落花生の栽培からピーナツバターの製造・販売までの一連の学習活動は、単なる授業を超えて地域の商店やイベントでの販売実習へとつながり、住民が生徒の取組を直接目にし、応援する機会を生み出している。特に販売活動においては、延べ43件の多様な店舗が協力し、生徒の学びを実社会で支えている。</p> <p>これにより、生徒にとっては「学びが社会に役立つ」という実感が得られると同時に、地域にとっても次世代を育成する取組として広く理解と協力を得ることができている。さらに、PTAや地域企業などからも関心が寄せられ、協力の輪が広がっている。成果発表会はメタバース空間で実施し、生徒の成長を全国に発信することで、社会全体がキャリア教育の担い手となる気運を醸成している。</p> <p>今後は、協力企業のさらなる拡大や大学との連携も視野に入れている。こうした発展的な取組を通じて、学校と社会が一体となって未来を担う人材を育てていくことを強く発信しており、キャリア教育を地域社会全体で進める文化を根付かせている。赤羽経済新聞への掲載や、高知県、富山県、島根県など多くの他県教育機関からの視察も全面的に受け入れ、取組のモデルケースとして外部への発信も数多く行っている。</p>	
その他	
<p>本取組の大きな成果の一つは、学習活動を通じて社会とつながる実績を具体的に残している点である。落花生を原料としたピーナツバターの販売では、毎年100万円を超える売上を記録し、生徒が自らの活動の価値を実感する機会となっている。得られた利益については、京都大学や日本総合研究所と連携し、「寄付」をテーマに学びを深めながら社会貢献につなげている。</p> <p>この過程で、生徒は単にお金を稼ぐことだけでなく、社会におけるお金の循環や寄付による支援の意義を理解することができている。さらに、寄付活動を通じて多くの団体を継続的に支援しており、生徒自身が社会課題の解決に主体的に関わる経験を積んでいる。</p> <p>キャリア教育は単なる知識の習得にとどまらず、「社会の一員としてどう生きるか」を考える学びへと発展している。本取組は、実践的な収益活動と社会貢献を有機的に結びつけることで、生徒の主体性や社会参画意識を高める実効性ある教育活動となっている。</p>	

<p>学校現場の評価・感想・コメントなど</p>	<p>本取組を通じて、生徒は「受け身で学ぶ存在」から「自分たちが主役となって学びをつくり上げる存在」へと大きく変化してきた。農業や販売活動に取り組む中で、自らの役割を見つけ出し、責任感を持って行動する姿が多く見られるようになってきている。その過程で、一人ひとりが自分の得意を活かしながら仲間と協力し、成果を社会に還元する喜びを実感できるようになった。</p> <p>また、授業を受けるという従来の枠を超え、自分たちの活動が地域に広がり、社会に影響を与えていることを体感することで、学びに対する主体性と誇りが育まれている。教員にとっても、生徒が「自分が学びの中心である」という感覚を持ちながら成長していく姿は大きな刺激であり、キャリア教育が教育現場全体に新たな可能性をもたらしていることを実感している。</p>
<p>関係諸機関からの評価・感想・コメントなど</p>	<p>私たちにとっても、この取組は大変意義深いものであった。生徒が栽培から製造、販売までの流れを真剣に学び、取り組む姿は、私たちに初心を思い出させてくれる。特に販売活動では、お客様に自分たちの言葉で商品の魅力を伝えようとする姿勢が印象的であり、多くの方々に温かく受け入れられていた。</p> <p>こうした経験は、人として大きな成長につながる機会であるだけでなく、私たちも一緒に学びながら次世代を育てていくパートナーとして関わることに誇りを感じている。今後もこの活動が広がり、より多くの若者に夢や挑戦のきっかけを与えることを期待している。</p>
<p>活動の今後の展望</p>	<p>本取組を推進しているのは桜丘の教員と生徒である。今後は、これまでに得られた学びをさらに発展させ、実際の起業やビジネス立ち上げへとつなげていくことを目指している。授業で培ったアイデアや経験を基盤として、生徒が小規模ながらも自ら事業を運営する実践の機会を設けることで、学びを一層実社会に根ざした形にしていく。</p> <p>また、連携している企業でのインターンシップを推進し、実際の職場環境での経験を通じて、社会で求められる力を直接体感できる場を提供する。さらに、一人ひとりの興味や関心に応じた多様な進路選択肢を提示できるよう、地域企業や大学、研究機関との協働を強化し、より個別化されたキャリア支援を行っていく。</p> <p>そして最終的には、本校卒業生が再び桜丘に帰り、この授業を運営する側となることを目標としている。学びを受け継ぎ、次の世代へと循環させることで、持続可能なキャリア教育の形を築いていきたいと考えている。</p>

	
<p>活動の様子</p>	<p>落花生の収穫はとても楽しい体験である一方で、大変な体力を必要とする作業でもあった。その経験を通じて、「高齢化が進む中で、この作業を担う人が減ってしまったら大丈夫なのだろうか」と、地域の現状や将来について考えるきっかけとなった。</p>
	 <p>販売の場面では、自分たちの商品を知ってもらうために、さまざまな工夫を凝らしていた。顧客に合わせた言葉遣いや視点を意識しながら取り組む姿は、とても実践的であり、教室だけでは得られない学びとなっていた。</p>